

公益社団法人 日本鍼灸師会会員

鍼灸臨床における地震対策マニュアル

目次

はじめに

I. 地震時対応の基本的事項

II. 防火対策

III. 棚類などの転倒防止と照明器具の落下防止

IV. マンション等の高層階での開院の場合

V. 地震遭遇に対する対策会議

地震発生時の心得（スローガン）

治療院内の張り紙用（地震発生時の心得）

【はじめに】

地震の最中に人々は、どのような行動をとることができるのでしょうか。

平成7年に発生した阪神大地震のアンケートにより、以下の結果が得られております。

・机の下などに隠れた人=2.4%
・火元の点検・消火を行った人=8.5%
・自分の身を守るのに精一杯の人=20.5%
・布団をかぶった人=20.8%
・何もできなかった人=40%

地震が発生したとき、鍼灸院内で被害を最小限におさえるには、鍼灸師があわてずに適切な行動を取り、患者の安全確保をすることが極めて重要です。

そのためには、みなさんが地震について関心を持ち、いざというときに落ちついて行動できるよう、日頃から地震についての正しい心構えを身につけ、いざというときの対策をイメージしておくことが大切です。

I. 地震時対応の基本的事項

1. 置鍼中の場合

- | |
|---|
| 1) ただちに患者のベッドに行き、まず自分自身を落ち着かせてから、患者に「私が一緒にいますから安心して下さい」「落ち着いて下さい」「鍼が刺さったままなので動かないで下さい」とアナウンスをします。 |
| 2) アナウンスと同時に、鍼が刺さっている場合は可能な限りただちに抜鍼して安全を確保します。ただし、地震の大きさや揺れにもよります。 |
| 3) 一人で複数の患者に置鍼をしている場合、ただちに他のベッドの患者へも的確にアナウンスし、個々への落ち着きを促すことが大切です。 |
| 4) 避難口を確保するため、出入り口を開け、脱衣カゴ、またはタオルケット類で頭を覆うように指示してから患者を誘導します。 |

【ワンポイントアドバイス】

研修会や院内研修会で、地震遭遇時の施術中患者への対処方法について訓練をすることを勧めます。たとえば、置鍼してパルス通電中という設定や、温灸に点火中などの設定で、パルスや温灸を早く外す練習、押し手なしで鍼をなるべく早く抜く練習をします。実際に自分たちの身体で練習することを勧めます。たえずシミュレーション・トレーニングが大切です。

2. 灸頭鍼・温灸の艾球が燃焼中の場合

1) 灸頭鍼による熱傷予防対策においては、平時のもとでも細心の注意が必要とされます。突然の地震による揺れに対しては、艾球落下の危険性は非常に高くなります。消毒綿花などで燃焼中の艾球を、すばやく取り除くことが大切です。突発的環境のトラブルへの対応は、普段からの訓練が重要です。

2) 艾球が落下した場合、落下した艾球を患者の体表部から取り除いた後、熱傷の状態を速やかに観察すると同時に、燃焼中の艾球が周辺に散乱していないか、すばやく確認することが必要です。

【ワンポイントアドバイス】

事前に水で濡らした綿花などを用意し、燃焼中の艾球をすばやく取り除く対策と、それを実行できる訓練を日頃から行っておくことが必要とされます。

3. 患者が治療室にいる場合・置鍼以外の場合

1) 突然大きな揺れに襲われたときは、まず自分自身を落ち着かせてから「脱衣カゴ、または付近にあるタオルケット類で頭を覆うことを指示し、「落ち着いて下さい」「大丈夫ですから、安心して下さい」「テーブル、ベッドなどの下にもぐって下さい」等をアナウンスしながら患者の身の安全を確保します。患者の安全確保を確認した後、揺れの状況を判断してから患者を安全な場所に誘導します。

2) キャビネットや棚、OA機器などが倒れることがあるので注意します。

【ワンポイントアドバイス】

常日頃から整理整頓をするなど治療環境をよくしておきます。

4. 待合室に患者がいる場合

1) あわてずに患者に脱衣カゴ、またはタオルケット類を渡し落ち着いた声で患者に「これで頭を覆ってください」と指示し、「落ち着いて下さい」「机やテーブルの下に入って下さい」「治療室のベッドの下にもぐって下さい」「大丈夫ですから、安心して下さい」とアナウンスをします。

2) 「キャビネットや棚に乗せてあるもの、テレビなどが倒れたり落ちてきたりするので、離れて下さい」「あわてて戸外に飛び出さないで下さい」とアナウンスをします。

3) 「天井からの落下物や窓ガラスが割れることがあるので、窓際から離れて下さい」とアナウンスします。

4) 戸を開けて、出入り口の確保をします。

【ワンポイントアドバイス】

何度もシミュレーション・トレーニングを繰り返すことが大切です。その状況を一番適切に判断できるかがポイントです。マニュアル通りに一つに限定するのではなく、その時、その場で一番合う方法を考えること(イメージトレーニング)が必要になります。たとえば、脱衣カゴ、またはタオルケット類を渡すか、または「机やテーブルの下に入って下さい」などのアナウンスをするなど、臨機応変に対応して下さい。

5. トイレに患者がいる場合・・・「天井からの落下物や窓ガラスが割れることがあるので、窓際から離れて下さい」とアナウンスします。

1) 揺れを感じたらまずひと声掛けてからドアを開け、出入り口を確保します。

2) 揺れが収まるのを待ち、患者に脱衣カゴ、またはタオルケット類で頭を覆うように指示して周辺の安全確認の後、避難誘導します。

【ワンポイントアドバイス】

鍼灸院の中でどこが一番安全なのかを確かめて、脱出通路に障害になるものを置かないようにします。また、地震により玄関が開かないことなどが考えられますので、日頃から避難口、非常口の確認をします。

II. 防火対策

1) 無理して火を消しに行くとキャビネットや棚から物が落ちてきたりするので、揺れが収まるまで待ちます。また、キャビネットや棚が倒れてくるだけでなく、引き出しや観音開きの扉から中身が飛び出してくることもあります。

【ワンポイントアドバイス】

消火器の正しい使い方を理解し、使いやすい場所に備えておきます。消火器の有効期限を確認し、期限切れのものは交換しておきます。

III. 棚類などの転倒防止と照明器具の落下防止

(1) 鍼灸院内の棚類、OA機器は、L型金具や突っ張り棒などで固定して転倒を防止します。引き出し部分や観音開きの扉にはストッパーなどを取り付け、中の物が飛び出ないようにします。ガラス扉には割れてもガラス片が飛び散らないように、飛散防止フィルムを貼っておきます。

(2) 蛍光管や電球は、飛散防止がなされている蛍光管や電球に取り替えます。吊り下げ式の照明器具はチェーンなどを使い天井に固定します。

(3) 鍼灸院での棚類・治療機器・家電製品の配置の工夫

① 出入口付近にはできるだけキャビネットや棚などは置かないようにします。

② ベッドからキャビネットや棚などを離します。

③ 重量のある治療機器などはできるだけ低い位置に置きます。

④ 治療機器や家電製品のそばに花瓶や水槽など水の入ったものを置かないようにします。

【ワンポイントアドバイス】

電気が復旧したときに、転倒したままの電気機器が作動して発火することがあります。ブレーカーが落ちて、器具の転倒やガス漏れを確認してから戻すよう心がけます。室内の換気は窓を大きく開ける方が安全で、神戸の震災では換気扇を使用するとスパークして、火事になった例が多く見られました。

IV.マンション等の高層階での開院の場合

(1) 日頃から非常口の確認をしておきます。

(2) 外へ逃げるときは落下物などに注意し、エレベーターは使わないようにします。

【ワンポイントアドバイス】

避難口まで、実際に歩いてみるなど危険箇所を把握し安全なルートを確認しておきます。

V.地震遭遇に対する対策会議

(1) 地震遭遇に対して日頃から対応と対策について、さまざまなケースを想定して検討しておき、緊急避難体制がスムーズに行われるようにしておくことが重要です。

- ①治療中の患者への対処方法
- ②患者の退避方法及び誘導方法
- ③鍼灸院の中でどこが一番安全か
- ④避難場所、避難路はどこか
- ⑤非常持出し袋はどこに置いてあるか

【ワンポイントアドバイス】

備蓄品・非常持出し品は、施術者や患者にとって本当に必要なものを考えて準備しましょう。各地で防災訓練等が行われていますので、鍼灸院のスタッフ全員で防災訓練に積極的に参加しましょう。

地震発生時の心得（スローガン）

○患者さんの安全確保

- ・治療中の患者さんに装着している機器類の脱着
- ・脱衣カゴ、またはタオルケット類等で頭部を防御
- ・頑丈なテーブル、ベッド等での体の安全確保

○患者さんの安全な場所への退避誘導

○火の元確認

○地震情報の収集

【ワンポイントアドバイス】

患者の安全な場所への退避誘導ですが、緊急避難時の対処では、「個人の所持品を持参させることは、避難に遅延が起る」といわれております。状況等を考慮して臨機応変に対応することが望ましいと考えます。

参考HP

マエダ企画地震対策マニュアル看板 <http://www.maeda-jp.net/maedakikaku.html>

消防庁防災マニュアル http://www.fdma.go.jp/bousai_manual/pre/preparation081.html

(治療院内の張り紙用)

地震発生時の心得

○患者さんの安全確保

- ・ 治療中の患者さんに装着している機器類の脱着
- ・ 脱衣カゴ、またはタオルケット類等で頭部を防御
- ・ 頑丈なテーブル、ベッド等での体の安全確保

○患者さんの安全な場所への退避誘導

○火の元確認

○地震情報の収集